

平成28年度 美郷町立邑智中学校 学校評価表(自己・学校関係者評価)評価書

○学校関係者評価委員
○校長

安田兼子 樋ヶ昭義 垣田光子 湯浅新治 佐藤龍美
錦織健一郎

| | | 自 己 評 価 | | | | | | 学校関係者評価 | | | | | |
|-------------|---------------------------------|------------------------------|---|---|-----|----|---|---|---|--|--|---|--|
| 学校経営の重点 | 具体目標 | 達成のための方策 | 評価指標 | 生徒 | 保護者 | 職員 | 評価 | 結果の分析および改善方策等 | 評価 | 自己評価に対する意見等 | | | |
| 基本的な生活習慣の確立 | ・基本的な生活習慣の確立を図る | ・望ましい生活習慣の大切さを指導する機会を継続してとる | 望ましい生活習慣に関わる指導を全校や学年部で継続して行った。 | 3 | 2 | 4 | 3 | 「ノーメディアの日」の取組が4年目となり、この日だけはこの意識は、毎回の生徒・保護者アンケートの記述からも感じられる。インターネットなどメディア接触については、メディア講演会などにより生徒への注意喚起はできたが家庭を巻き込んだ取り組みは不十分な面があった。普段の生活においてSNSを安全に利用できるように家庭においても指導できるように学校から保護者へ情報の発信を進めなければならない。挨拶はこれまでのように評価の意見を聞くことができているが、校外でのあいさつや、校内での言葉遣いでは配慮を要する面があり、道徳、学級活動や生徒会活動で具体的に問題点を意識できる全校的な取組を実施していきたい。 | 3 | 基本的な生活習慣の取組については、学校だけでかかえ込まずに、家庭での取組が大切ではないか。スリッパを揃える等、家庭でできるしつけは家庭でやってもらうように協力を呼びかけてはどうか。 | | | |
| | | | 生徒アンケート「『ノーメディアの日』を意識して取り組んだ」 | | | | | | | | | | |
| | ・明るく、さわやかなあいさつ、言葉遣いを行う | ・部活動指導や生徒会による呼びかけ等の推進 | あいさつや言葉遣いについて、部活動での指導や生徒会からの呼びかけ・取組を行った。 | 4 | 3 | 4 | 4 | | | | | | |
| | | | 生徒アンケート「あいさつ、言葉遣いを意識して生活した」 | | | | | | | | | | |
| 学力の向上 | ・日々の授業を充実させる | ・各教科の特色を生かした授業を推進する。 | 全教員が最低1回は校内研究授業を実施した。 | 4 | 2 | 3 | 3 | 生徒の授業に前向きに取り組まなければならないという意識は、昨年度と同様に高い。教員の授業改善の努力も、それぞれの教員がICTを効果的に活用しながら授業指導を進め、生徒の授業への関心・意欲を高めることもできたように思う。しかし、授業への取組が、テスト結果に反映していない傾向がある。授業の充実だけでなく、成績に結びつく一連の学習方法や自らの学習意欲を高める授業展開を工夫していく必要がある。 | 3 | タブレット端末利用の長短を検討しながら、さらにタブレット端末の効果的な利用方法について研究して欲しい。ただ、保護者にはタブレット端末の使用状況や良さが見えにくいので、保護者への広報の工夫が必要ではないか。 | | | |
| | | | 生徒アンケート「わたしは一生懸命に授業に取り組んだ」 | | | | | | | | | | |
| | | ・楽しく、わかりやすい授業を推進する。 | 通知表の「関心・意欲・態度」にCがついている生徒がいない。 | 3 | 2 | 4 | 3 | | | | | | |
| | | | 生徒アンケート「授業は楽しく、わかりやすい」 | | | | | | | | | | |
| | ・学習習慣の確立と家庭学習の習慣化を図る | ・学習習慣形成に向けた全体指導、個別指導を行う | ・学習習慣形成に向けて、教科担当や学年部で、全体指導や個別指導に取り組んだ。 | 学習習慣形成に向けて、教科担当や学年部で、全体指導や個別指導に取り組んだ。 | 2 | 2 | 4 | | 3 | | 学習習慣の定着を目指して、定期テスト期間中の放課後学習、家庭学習時間や課題の確認など行った。全体的には定期テスト前の学習には、よく取り組んでいるが、日常の家庭学習にあまり変化は見られなかった。保護者評価でも「起床時間、就寝時間、家庭学習開始時間の決定」の結果は向上していない。まだまだ主体的な判断による家庭学習の実施になっていない面がある。日々の家庭学習の継続が自己の能力伸長につながることを理解できるように、個別でのアドバイスの機会を増やしていく取組を行いたい。また、学習支援館との連携も工夫していきたい。 | 3 | 自分の将来を見据えるキャリア教育の推進がこれからは大切ではないか。また、そこから自分の学習の取組を見つめ直し、家庭学習のよりよい習慣作りができると良いのではないか。 |
| | | | | 生徒アンケート「起床時間、就寝時間、家庭学習開始時間を決めて生活している」 | | | | | | | | | |
| | | ・家庭学習定着につながる課題を出す | ・家庭学習定着に向けての取組を各教科や学年部で継続して行った。 | 学習習慣定着に向けての取組を各教科や学年部で継続して行った。 | 2 | 2 | 4 | | 3 | | | | |
| | | | | 生徒アンケート「平日の家庭学習を1時間以上行った」 | | | | | | | | | |
| | ・授業における学校図書館の活用を通じた言語活動の充実を図る | ・授業における学校図書館の活用を推進する | 図書館を活用した授業を各教科年間1回以上行う | 図書館を活用した授業を各教科年間1回以上行う | 2 | 1 | 3 | | 2 | | 要約学習やグループ学習による話し合い活動等、授業での言語活動の充実は図られたが、図書館の十分な活用までにはいっていない。朝読書や読み聞かせ、生徒会文化委員会による小学校での読み聞かせ等、読書習慣への取組は昨年度以上によかったと思われる。これらの取組を通して、読書から学習習慣や望ましい生活習慣へとつなげていきたい。 | 2 | 「みさと本の森」との連携や学校図書館を利用した授業の推進等、生徒が本にふれたり、図書館を利用したりする機会を増やして欲しい。 |
| | | | | 生徒一人あたりの貸し出し冊数を昨年度以上にする | | | | | | | | | |
| 人権・同和教育の推進 | ・保護者や地域・関係機関との連携に基づいた人権・同和教育の推進 | ・保護者とともに人権・同和教育を推進する | 学校の人権・同和教育の取組について保護者に伝える機会を持った | 3 | 4 | 3 | 昨年度と同様に保護者アンケートの結果は全校的にはよかった。人権・同和教育問題学習等の公開授業においては、保護者に参観の案内文書を配布するなど、今までに行っていない取組について検討する必要がある。昨年度よりも少しでも多くの保護者の方が参加できたり、学習の機会が増えたりするように学年ごとのPTA活動などと連携した取組を考えてきたい。浜原隣保館との連携、関連機関講師による授業実践なども計画的に実施することができている。指導して頂いた外部講師の皆さんからも生徒の学習姿勢を肯定的に評価して頂くことができた。 | 3 | 浜原隣保館等、外部機関との連携ができており、良いことだと思われるが、今後、地域で活動しておられる方々の声を聞くことで、学校が地域について知り、学ぶことが今まで以上に充実するのではないか。 | | | | |
| | | | 保護者アンケート「わが子のよりよい成長に向けて学校と連携して取り組むことができた」 | | | | | | | | | | |
| | | ・地域の方や関係機関と連携しながら人権・同和教育を進める | 地域の方や関係機関と連携して人権・同和教育に関する学習を行った | | | | | | | 4 | 4 | | |
| | | | 行事の際に「学校と連携して充実した学習を進めることができたか」を関係機関に確認する | | | | | | | | | | |
| | ・人権学習、同和教育問題学習の充実 | 人権学習、同和教育問題学習を計画的に実施する。 | 各行事のねらいの中に、人権・同和教育の視点からのねらいが設定されている。 | 各行事のねらいの中に、人権・同和教育の視点からのねらいが設定されている。 | 4 | 4 | | 4 | | 4 | 3年間を通じての総合的な学習の時間と社会科、道徳と連携した人権・同和教育問題学習の定着、生徒会活動の「人権集会」、「ふれあいタイム」の活動などにより、人権・同和教育の取組についての評価はよい結果を得られている。朝礼、小委員会などを利用し、早期に個々の生徒の課題について情報共有を図り、生徒支援の充実に努めた。これらの活動や学習の成果が日常の行動に結びついていくように指導場面を大切に、変容が生徒自身や保護者に少しでも分かるように示していきたい。 | 4 | 学校での色々な取組が生徒の成長につながっているように思われる。生徒が学んだ内容も保護者や地域等により伝わるような工夫があると良いのではないか。 |
| | | | | 生徒アンケート「人権に関する学習を通してよりよい生き方について考えることができた」 | | | | | | | | | |
| | ・生徒支援の充実 | ・情報の共有を図り、組織的な対応を実施する。 | 生徒の課題を早期に焦点化し、学年などを中心に組織的に対応する。 | 生徒の課題を早期に焦点化し、学年などを中心に組織的に対応する。 | 3 | 4 | | 4 | | 4 | | | |
| | | | | 生徒アンケート「自分の良いところや改善しなければいけないところをアドバイスされた」 | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|--------------|---|----------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|--|
| 特別支援教育の推進 | ・全職員で取り組む特別支援教育を推進する | ・特別支援を要する生徒への支援に全職員で関わる | 校内就学指導委員会が定期的開催され、組織的に実態把握や生徒の支援に取り組んだ。 職員アンケート「特別支援教育に全職員で当たった」 | | | 4 | 4 | 個々の生徒の学習活動から必要な学習支援の状況の把握に努め、ケース会議等で情報の共有や支援のあり方を検討した。生徒の困り感の把握とその困り感の解消に向けた対応を全職員が共通理解しながら、継続的に指導を続けていくことができた。学習支援員によるTT授業によって課題を抱えた生徒の学習支援をすすめることができた。ただ、課題を抱える生徒への支援の必要性にたいして支援体制が追従できていない面もあり、職員のより効率的な指導の在り方を常に工夫していく姿勢を持ち続けていく必要がある。 | 4 | 生徒一人ひとりへのきめ細かい対応をするためには、教職員の負担も増えていくと思うが、組織的な対応を考えて、教職員が協力しながらきめ細かい対応ができると良いのではないかと。 |
| | ・個々の生徒の実態を踏まえた指導、支援を工夫する | ・特別支援教育部会を設置し、実態把握と支援に組織的に取り組む | 「個別の指導計画」「個別の支援計画」を作成し、職員の共通理解のもと指導・支援にあたった。 生徒アンケート「学習でわからないときや困ったときに先生にいていねいに対応してもらった」 | 4 | 3 | 4 | 4 | | 4 | |
| 積極的な生徒指導の推進 | ・共感的な人間関係を育む | ・共感的な人間関係を育む行事や活動を計画的に実施する | 共感的な人間関係を育む活動を学年や全校で月1回程度のペースで実施した。 生徒アンケート「誰とでも仲良く接することができた」 | 4 | 4 | 3 | 4 | 生徒会スローガン「わかり合おう個性 伝え合おう自分の気持ち 深めよう友情」をもとに、生徒会活動を中心に「あいさつ運動」、「ふれあいタイム」、「人権集会」など邑智中の温かい集団づくりに生徒だけでなく、職員が一緒になって取り組むことができた。体育祭や文化祭、部活動など生徒主体の取組を大切にしていけることができた。各行事のアンケートなどにおいても、よい評価を得られており、生徒たちの反省にも前向きな意見の記述が多く見られた。生徒たちはそれぞれの学校行事において、協力や他者とのふれあいの大切さを実感したり、達成感を感じたりしており、積極的な生徒指導が推進できたと考えられる。また、集団づくりにスクールカウンセラーの助言や支援、客観的な人間関係調査の結果などを積極的に生かしていきたい。 | 4 | 生徒会活動や学校行事等で、生徒が積極的に活動できているように思える。また、教職員とのつながりも良好のようで、今までの取組がこれからも継続できるようにして欲しい。 |
| | ・自己決定の場面を確保する | ・授業や行事、部活動において、自己決定の場面をできるだけ確保する | 職員アンケート「生徒が授業や行事、部活動において、自己決定する場面を確保するように心がけた」 生徒アンケート「自分で考えて行動することができた」 | 4 | 4 | 4 | 4 | | 4 | |
| | ・生徒が自己存在感を味わえるようにする | ・生徒を肯定的に評価する機会をできるだけ多くとる | 職員アンケート「生徒の評価に際しては、肯定的評価を重視するよう心がけた」 生徒アンケート「授業や行事で自分を認めてもらったと感じている」 | 3 | 3 | 4 | 3 | | 3 | |
| 家庭、地域との連携・協力 | ・地域の力を活用した教育活動を展開する | ・学習の充実に向け地域の方の協力を得る機会を持つ | 地域の教育力を生かした教育活動を学期1回以上持った。 生徒アンケート「地域の方と一緒に学習や活動をして楽しかった」 | 3 | 3 | 4 | 3 | 職場体験学習、三瓶登山、石見銀山やなしお街道学習、郷土料理や朝食・弁当づくり学習など、地域の方々に指導者に各学年を通じて積極的な体験活動が実施できた。人権・同和教育や食育、性教育など3年間をかけての計画的な活動においても外部講師との連携した学習活動となるように行うことができた。修学旅行での地域PR活動、暑中見舞い・年賀状活動、夏休み中のサマーボランティア活動、地域生徒会奉仕活動など中学生として地域に貢献できる活動も地域の協力を得ながら実施することができ、生徒たちも充実した達成感を得ることができた。これらの活動においては、地域の皆さんと生徒たちがふれあうことができていることが何よりも貴重であり、今後も大切にしていかなければならないと考えている。町駅伝、産業祭など部活動の一環として地域活動を意識した取組が実施できた。これらの取組の様子や生徒の意識を家庭、地域へ「学校だより」、学校HPで積極的に伝える広報活動に努力した。 | 3 | 小学校や町教育委員会との連携を進め、系統立てたふるさと教育が実施できると良い。なくなっていく昔の良さや地域で頑張っている人との出会い等を通して、地域の伝統文化や地域への愛着を育てて欲しい。 |
| | ・生徒が地域の一員としての自覚を持てる場づくりを行う | ・中学生が地域に貢献する機会を持つ | 中学生が地域に貢献する活動を学期に1回以上持った。 生徒アンケート「学校の活動を通して、地域の人に喜んでもらうことができた」 | 4 | 3 | 4 | 4 | | 4 | |
| | ・「学校だより」を通じた開かれた学校を実現する | ・「学校だより」を毎週発行し、家庭の学校教育への理解を深める | 「学校だより」を週1回発行する。 保護者アンケート「学校だより」等を通して学校の様子がよくわかった」 | 4 | 4 | 4 | 4 | | 4 | |
| 自己評価総合所見 | <ul style="list-style-type: none"> ・学力の向上を目指して、学習規律の確立と家庭学習の習慣化が課題となっている。生徒のアンケート値の低さからも学習習慣の定着や学力向上に対して、どのような視点を持ち、どの様に取り組んでいくのかを今一度検討しなければならないと思う。 ・人権・同和教育学習、特別支援教育、生徒会活動、積極的な生徒指導等、今年度も本校の取組が推進され、効果を上げている。このことに着目し、その良さをさらに継続し充実していくことを職員全員で共通理解し、実践していかなければならないと考えている。 | | | | | | | | | |
| 学校関係者評価総合所見 | <ul style="list-style-type: none"> ・学力向上の取組の一つとしてICTの活用があるが、ICTを活用した授業の状況やICT活用の良さをもち、学校の外部に発信して欲しい。また、学習意欲の向上につなげるためにも、キャリア教育を通して、生徒が自分の将来を見据え、自分自身が何をどのように学んでいくのかを考えられるような力を育てて欲しい。 ・ふるさと教育においては、小学校や町教育委員会と連携し、系統立てたふるさと教育を実施して欲しい。神楽など、地域の伝統文化の良さを生徒が学び、地域の将来を担おうとする気持ちを育てて欲しい。そのためには、教職員も地域について学び、地域の良さを知っていることも大切になるのではないかと。 | | | | | | | | | |
| 学校関係者評価を受けて | <ul style="list-style-type: none"> ・全体を通して、それぞれの学校の取組には課題や改善点があることがわかった。内容によっては、早急に改善できないものもあるが、よりよい学校づくりに向けて、職員全体で課題等を検討していきたい。 ・ICTの利用については、定着しつつあり、学習において効果を実感している。それが学力向上につながるようにこつこつと小さな取組でも継続していくことが大切と考えている。 ・人権・同和教育や生徒指導等の推進においては、認め合い、支え合う集団づくりや生徒と教職員との信頼関係が大切と考える。今年度の良好な状態に安心せず、一人ひとりの生徒の状況をしっかりと見つめながら、健全な学校運営ができるように努力していきたい。 | | | | | | | | | |

| 評価 | 基準 | |
|----|----------------|----------------|
| 4 | 80%以上の達成度 | 目標を達成できた |
| 3 | 60%以上80%未満の達成度 | 概ね目標を達成できた |
| 2 | 40%以上60%未満の達成度 | あまり目標を達成できなかった |
| 1 | 40%未満の達成度 | 目標を達成できなかった |